

1月の実験

今回は 1400g の生ごみを 700g ずつ 2 箇所で行った実験をおこなった。実験内容は、廃油を 0g と 400g 投入し、分解スピードと土壌温度を観察した。更に、廃油を投入している方は熱湯（90℃）を使用して様子を観察した。

【投入したもの】

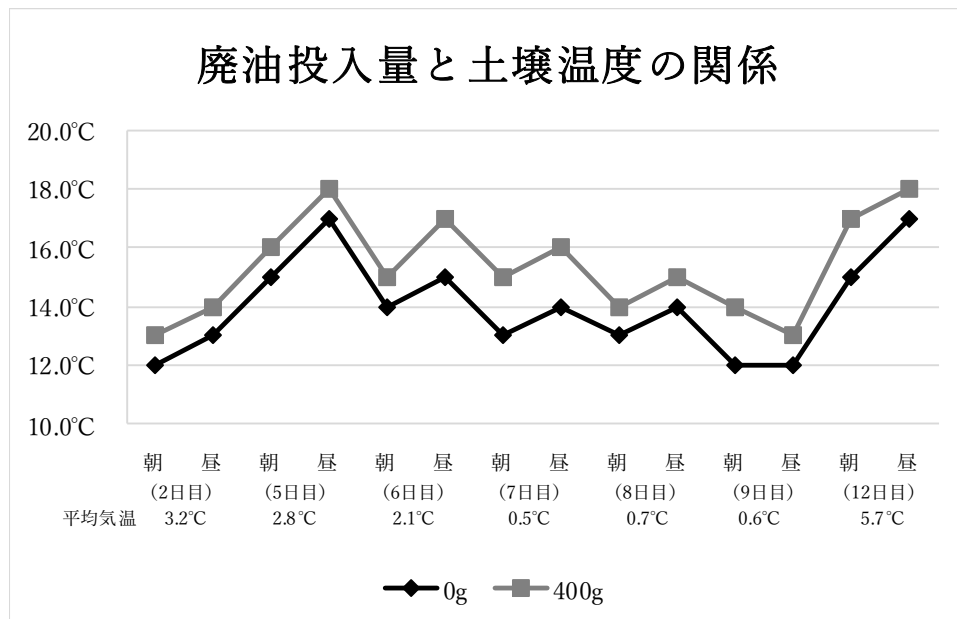
お茶葉、ご飯、麺類、柑橘系の皮

(2 箇所の生ごみが均等になるようによくかき混ぜてから投入し、柑橘系の皮も半分ずつ分けた)

水分は最初に 300ml 投入し、その後は 2.5.6.7.8.9.12 日目に 100ml ずつ投入しています。その時油を投入した方は熱湯（90℃）を使用しています。

【結果】

両方とも 12 日で分解した。平均気温が 0℃台と低くなかなか分解スピードが上がらない結果となった。熱湯を定期的に投入したが、結果は土壌温度はあまり変わらなかった。



【考察】

分解スピードは変わらない結果となった。外気の平均気温が低く、この時期は生ごみの分解にとっても時間がかかり、土壌温度も上がりにくかった。しかし、12 日で分解されるので冬でも十分生ごみ処理器キエーロを活用できることが分かる。現在使用しているキエーロと、半年間使用していないキエーロがあるので、それぞれの分解スピードに違いが出るのかを見ていきたい。